

# Salon

Vol.118 2019年1月 新春号



ホール3F 壁画 ポール・ギアマン作「クインテット」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — クアルテット・エクセルシオ
- 03 Phoenix Presents — 世界をリードする弦楽四重奏の饗宴
- 05 Pick Up
- 06 Phoenix Spot — フォーク・ソングス～ハンガリアン・スケッチ～に寄せて
- 07 Essay de say — 音楽も環境次第 平野啓一郎

## 大阪が輩出した世界トップクラスの弦楽四重奏シリーズが開幕 日本を代表するクアルテット・エクセルシオがその魅力に迫る



©小倉直子

3年に一度大阪で開催される大阪国際室内楽コンクールでは、これまでに多くの入賞団体を輩出してきたが、その中には世界中で活躍を続ける弦楽四重奏も数多い。そんな彼らが大阪に戻ってくるシリーズ「世界をリードする弦楽四重奏の響宴」が開催される。文豪ゲーテが『賢人たちの対話』と称した弦楽四重奏は、1人の人間の一時の努力で成せる世界では無く、4人の知的で優れた奏者が、長い時間をかけて練り上げる至高の芸術。それ故に、これだけのレベルの団体数が揃うのは貴重な機会となる。コンクール受賞から時を経て、更なる境地を切り拓いている弦楽四重奏は、さながら熟成の進んだワインを髣髴させるだろう。ぜひとも各国を代表するアンサンブルの響きに身を任せて、芳醇な音楽を味わってほしい。今回は1996年の第2回コンクールで2位を受賞し、国内外でトップクラスの活動を続けるクアルテット・エクセルシオに、弦楽四重奏の魅力や、シリーズで演奏される曲目について語ってもらった。

(取材・文:河井 拓/日本室内楽振興財団 プロデューサー)

クアルテット・エクセルシオ (Quartet Excelsior/弦楽四重奏団) 西野ゆか、山田百子(以上ヴァイオリン)、吉田有紀子(ヴィオラ)、大友 肇(チェロ)

(繊細優美な金銀細工のよう)と2016年ドイツデビューで高評された、年間70公演以上を行う、日本では数少ない常設の弦楽四重奏団。1994年結成。1996年大阪国際室内楽コンクール第2位、2002年パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクール最高位、第19回新日鉄住金音楽賞「フレッシュアーティスト賞」、第16回ホテルオークラ音楽賞など受賞歴多数。東京・札幌・京都で開催する『定期公演』、20世紀以降の現代作品に注目した『ラボ・エクセルシオ』、人気傑作選『弦楽四重奏の旅』などの主催シリーズを展開しつつ国内外で活動。加えて、アウトリーチやコミュニティ・プログラムなども広く参加し、室内楽の普及にも力を注ぐ。また、2010年から2016年までサントリーホール室内楽アカデミーのファカルティを務めるなど、後進の育成にも携わる。2016年6月には同ホール主催のベートーヴェンの弦楽四重奏全16曲演奏会を2週間で演奏。ベートーヴェン、シューベルト、ドヴォルザークなど録音多数。現在は、浦安音楽ホールのレジデンシャル・アーティストを務める。

## シンプルな美しさ、 黄金律のような完璧なサウンドを求めて

エクセルシオは弦楽四重奏として25年活動していますね。ここまで続けてきて、あらためて弦楽四重奏とはどんな音楽でしょう？

室内楽にも色々な編成がありますが、弦楽四重奏はその中でも別世界というイメージになってきましたね。

たとえばピアノ三重奏の場合などは、ピアノの響きの中である程度自由になれることもありますが、弦楽四重奏の場合は4人で本当に突き詰めて、こだわって掘り下げていかなきゃいけないし、熟成に時間が必要なのだと思います。そのように熟成されたサウンドはとても美しいし、訴えるものがあります。

それにレパートリーは信じられないくらいに豊富ですね。「大変な名曲が幾つかあるな」という程度では無く、もう取り組み切れないほど膨大です。

**それは作曲家にとって、弦楽四重奏は取り組みたいジャンルだった？**

それは感じますね、一番取り組みたかった方も多いのではないのでしょうか。最近読んだ作曲家について書かれている本では、必ず弦楽四重奏の話が出てきました。みんな「私は弦楽四重奏についてこう考えている」という主張を持っている。優れた作曲家というのは、必ず良い弦楽四重奏曲を作曲していると思います。

時代や人によって作曲に至る経緯は違っていますが、弦楽器4挺の響きというのはシンプルだけど、とても美しい。この4挺で鳴らすというシンプルな美しさが、弦楽四重奏の魅力なんですよね。

また4人だからこそ、作曲家も色々実験できるのでしょ。大人数の音楽だと逆に制限があるのかもしれないけど、4挺の楽器の可能性の中で、自分のアイデアをどんどん実験していける。だから同じ作曲家でも、音楽の世界が段々と変化していく。

楽器の種類については、要素を増やすのではなく、要素を絞っていくことで豊かに出来るサウンドを突き詰めたのが弦楽四重奏なんだと思います。

**作曲家が実験的に取り組めて、サウンドを突き詰められるとのことですが、演奏家自身も自発的に、音楽に積極的になれるジャンルですか？**

例えばオーケストラの場合だと人数が多いので、全員で完璧に合わせるのには難しい場合があります。特に弦楽器は1つのパートを複数人が演奏しますので、そこで最終的には指揮者がいて、方向性を決定する。

でも弦楽四重奏の場合は違って、1パートは1人しか弾かない。黄金律のような完璧なサウンドを求める意識になれます。それぞれが能動的に取り組みやすく、音楽を表現する際にも自己の内面に迫るといえるか、演奏者自身の人間性のようなものも出てくる気がします。そのように本気で理想を追求する時には、4人という人数はバランスが良いですね。

**今回のシリーズでは、登場団体の全てがベートーヴェンを演奏します。ベートーヴェンの弦楽四重奏曲は聖書のように例えられる時がありますね。**

ベートーヴェンの素晴らしいところは、独立した4人の存在感やバランスでしょうか。

例えばハイドンの場合は、「メロディー」のパートがあった時に、残りは「それ以外の支える3人」とひとまとめに扱われることもあります。もちろん、それも素敵な音楽なのは確かです。

しかし、ベートーヴェンの場合は4つのパートがそれぞれ確固たる存在感を持って、どこも足し引き出来ない構造になっている。もちろんメロディーなどの役割はあるけど、他のパートも「その他の3人」では無く、完全に独立した対等の4つのパートということです。全ての楽器の、全ての音に意味がある。

聖書のように例えられるように、まさにひとつフレーズずつ意味を全て考えてしまい、簡単には進められないという感じでしょうか。

実際に聴いていても、演奏者の生きてきた経験や、善悪両面を含んだ人間性のような物が感じられないと、心に届かないように感じます。技術的に上手いだけだと、何か物足りなくなってしまう。

**ベートーヴェン以外にも、ハイドンからロマン派、近現代の作品など、様々な音楽が演奏されます。エクセルシオもハイドンとシューマンを演奏しますね。**

そうですね、それぞれの作品に魅力がありますが、敢えて対比をするならハイドンは理性的の世界のように感じます。哲学や人間の内面は語らずに、音そのものを構築している感じ。重力とか星の運航など、数学的な要素とリンクしているのかもしれませんが。

それに対してロマン派の音楽は、人間の本能的部分や、情感などを感じさせる世界ですね。音楽の中でとても自分自身の事を語っていて、私小説のようでもあります。特にシューマンはその傾向が強いです、「僕の想いを聴いて」とプッシュしてくる。

ロマン派の作曲家の場合、そのように音楽を通し

て作曲家の人間味を強く感じられます。

**そのように相手の人間味が出てくるからこそ、演奏者も人間なので…**

そう、共感できないなって思うことも、時々はある(苦笑)

シューマンの人生って、ご存知の通り自殺未遂もしたし、悲劇的だった。妻であるクララも苦心して彼を支えた。弦楽四重奏は彼が幸せな時に作曲されたけど、演奏が進むにつれてドロドロのテレビドラマなどを見ているような感覚なのかもしれません。

**出演団体の拠点が5か国それぞれ違います。演奏者の国によって音楽のキャラクターに違いを感じたことはありますか？**

今回はチェコやルーマニアの団体が出演するけど、東ヨーロッパの音楽家は、印象としては華やかというより渋め。でも何とていうか優しい音で、とても音程が良いイメージですね。和声の捉え方など、「なるほど、それが正しいんだ」って正解を提示されたような音楽。あの音色や音程は絶対にマネできないって思うくらい、特別に個性的な音色だと思う。

イギリスの音楽家の演奏は、どこか洒落な感じの印象ですね。語り口が粋というか。ユーモアを感じることもありますね。

アメリカのアタック・カルテットは、以前お会いしたことがありますが、とてもエネルギーで、パワフルな演奏という印象が残っています。

日本からは私たちが出演しますが、ザ・フェニックスホールで弾くのは初めてなので、どのように響くのか楽しみですし、お客様がどのように反応してくださるのかワクワクしています。様々な国のカルテットで表現や音楽も全然違うので、ぜひ5団体全てのカルテットを聴いてお楽しみください。

**世界をリードする弦楽四重奏の響宴「カルテット・エクセルシオ」**は、2019年7月27日(土)午後3時開演。入場料3,500円(指定席)、友の会3,150円。学生1,500円(限定数)。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時~17時)。**★セット券販売があります。詳細は3、4ページをご覧ください。**

[プログラム]

ハイドン:弦楽四重奏曲 二長調 作品71-2  
ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第9番 八長調  
「ラズモフスキー第3番」 作品59-3  
シューマン:弦楽四重奏曲 第1番 イ短調 作品41-1

## 新年のご挨拶

みなさま 輝かしい新年を迎えられたことと存じます。昨年はあいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールにご愛顧を賜り、誠にありがとうございました。当ホールにご来場されます全てのお客様にご満足いただけるホールとして、スタッフ一同、一層の努力をして参りますので、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。みなさまにとりまして、この一年が素晴らしい年になりますようご祈念申し上げますとともに、ご来館を心よりお待ちしております。

2019年 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール スタッフ一同

## 『世界をリードする弦楽四重奏の響宴』ザ・フェニックスホールで開幕!

ザ・フェニックスホールと日本室内楽振興財団が共同で主催する「世界をリードする弦楽四重奏の響宴」が2019年5月よりスタートします。この財団が主催する大阪国際室内楽コンクールで1位もしくは2位を受賞した5団体が登場し、華麗なる響宴を繰り広げます。このコンクールは若手の室内楽演奏団体にとっての登竜門的コンクールであり、ここで好成績を取めた団体の多くが、その後世界を股にかけ活躍しています。今回はその成果を目の当たりにする千載一遇のチャンス。また、2020年のベートーヴェン生誕250周年に先駆け、各団体それぞれがベートーヴェン作品をプログラムに組み込んでいます。弦楽四重奏の聖典とも言われるベートーヴェン作品がどのように解釈され演奏されるのか、各団体のカラーを感じながら聴き比べてみてください。世界トップレベルの演奏を存分に堪能できる弦楽四重奏の響宴。是非、お得なセット券でお楽しみください。

※1公演毎でのご購入も可能です。

5公演セット券 指定席 一般価格 ¥17,000 友の会価格 ¥15,000(お一人様2席まで)



1月18日(金)  
10:00 受付開始  
ザフェニックスホール  
友の会優先予約

1月21日(月)  
10:00 受付開始  
イーフェニックス  
E-PHX優先予約

1月22日(火)  
10:00  
一般発売

インターネット予約、ご来店による  
お申込みは1月23日(水)10:00から!

## ホール主催・共催・協賛・協力公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

- ザ・フェニックスホール友の会優先予約
  - ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
  - ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
  - ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。
- E-PHX(イーフェニックス)優先予約
  - ・E-PHX(イーフェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
  - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
  - ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。
- 一般発売
  - ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
  - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

<http://phoenixhall.jp/>

チケットセンターのページからお申込みください

- インターネット予約(主催公演のみ)
  - ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
  - ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
  - ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
  - ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしていません。
  - ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による  
お申込み

- ・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物8階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法 下記①または②のどちらかとなります。

- ①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。  
営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
- ②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

## 世界をリードする弦楽四重奏の響宴 Line Up

2019年5月23日(木)

19:00開演 指定席  
一般¥4,000(友の会価格¥3,600)  
学生¥1,500(限定数)世界中のコンクールで優勝重ねる、新進気鋭のフロントランナー  
アルカディア・クアルテット (ルーマニア)

出演 アナ・トローク、レスヴァン・ドゥミトル(以上ヴァイオリン)、トライアン・ボアラ(ヴィオラ)、ツォルト・トローク(チェロ)  
 曲目 ハイドン:弦楽四重奏曲 二長調「ラルゴ」作品76-5 バルトーク:弦楽四重奏曲 第4番 Sz.91  
 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第10番 変ホ長調「ハーブ」作品74

第8回(2014年)コンクール第1位。2006年にルーマニアのゲオルゲ・ディマ音楽アカデミーの学生により結成。2009年ハンブルグ国際室内楽コンクール、2012年ウィグモアホール国際弦楽四重奏コンクールで優勝。ハンガリー国内だけでなく、パリ、フランクフルト、モントリオール、アムステルダム、ロンドン、東京などで出演している。2015年のウィグモアホールの公演は、BBC Radio3で放送されている。2015年はブカレストのナショナル・アート・センターのレジデンスとして年間6回のコンサートに出演し、ルーマニア放送より放送された。

2019年7月27日(土)

15:00開演 指定席  
一般¥3,500(友の会価格¥3,150)  
学生¥1,500(限定数)

©小倉直子

繊細な日本の美、匠の織りなす音細工  
クアルテット・エクセルシオ (日本)

出演 西野ゆか、山田百子(以上ヴァイオリン)、吉田有紀子(ヴィオラ)、大友 肇(チェロ)  
 曲目 ハイドン:弦楽四重奏曲 二長調 作品71-2 シューマン:弦楽四重奏曲 第1番 イ短調 作品41-1  
 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第9番 八長調「ラズモフスキー第3番」作品59-3

第2回(1996年)コンクール第2位。「繊細優美な金銀細工のよう」(独フランクフルター・アルゲマイネ紙)と2016年ドイツレビューで称賛された。年間70公演以上を行う日本では数少ない常設の弦楽四重奏団。ベートーヴェンを軸にした『定期公演』、20世紀以降の作品に光をあてる『ラボ・エクセルシオ』などの主催公演を開催。第5回パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクール最高位、第19回新日鉄住金音楽賞「フレッシュアーティスト賞」、第16回ホテルオークラ音楽賞など受賞歴多数。2017年4月より浦安音楽ホールのレジデンス・アーティストに就任。

2019年11月3日(日・祝)

15:00開演 指定席  
一般¥4,000(友の会価格¥3,600)  
学生¥1,500(限定数)弛まぬ研究、考証を重ねた最先端のサウンド  
ドーリック・クアルテット (イギリス)

出演 アレックス・レディントン、ジョナサン・ストーン(以上ヴァイオリン)、エレネ・クレマン(ヴィオラ)、ジョン・マイヤースコウ(チェロ)  
 曲目 ハイドン:弦楽四重奏曲 二長調「ひばり」作品64-5 メンデルスゾーン:弦楽四重奏曲 第6番 へ短調 作品80  
 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第13番 変ロ長調「大フーガ付」作品130

第6回(2008年)コンクール第1位。イギリスの同世代で結成され、世界中の聴衆、批評家を魅了し、今最も注目されている四重奏団である。2007年メルボルン国際室内楽コンクールで入賞。2008年にはパオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクールで第2位。現在ではヨーロッパだけでなく、北米でも定期的に公演を行っている。ジョン・アダムスの弦楽四重奏とオーケストラの作品「Absolute Jest」を、作曲家の指揮で、ウィーン交響楽団やオランダ放送フィルと共演。2015年からロンドン王立音楽院で後進の指導にもあたっている。

2020年2月20日(木)

19:00開演 指定席  
一般¥4,000(友の会価格¥3,600)  
学生¥1,500(限定数)

©Kamil Ghais

“弦の国”チェコから、ピロードの響きを  
ベネヴィッツ・クアルテット (チェコ)

出演 ヤクブ・フィッシャー、シュチェパン・イェジェック(以上ヴァイオリン)、イジー・ピンカス(ヴィオラ)、シュチェパン・ドレジャール(チェロ)  
 曲目 スメタナ:弦楽四重奏曲 第2番 二短調 シューマン:弦楽四重奏曲 第2番 へ長調 作品41-2  
 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第15番 イ短調 作品132

第5回(2005年)コンクール第1位。1998年結成。2008年にはパオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクールで優勝。近年ではチェコ・フィルハーモニー室内楽協会のレジデンスを務め、ドヴォルザークホールでのコンサートに定期的に出演しているほか、イタリア、日本、アメリカ、韓国などにツアーを行っており、ロンドンのウィグモアホール、ハンブルクのエルベ・フィルハーモニーに出演など、国内外で幅広く活動中。ベネヴィッツの名前は、チェコのヴァイオリンスターの創設者アントニン・ベネヴィッツに由来。

2020年4月11日(土)

15:00開演 指定席  
一般¥4,000(友の会価格¥3,600)  
学生¥1,500(限定数)

©Shervin Lainez

クアルテット先進国から、時代を拓くニューウェーブ  
アタッカ・クアルテット (アメリカ)

出演 エイミー・シュローダー、徳永慶子(以上ヴァイオリン)、ネイサン・シュラム(ヴィオラ)、アンドリュー・イー(チェロ)  
 曲目 ハイドン:弦楽四重奏曲 八長調 作品20-2 キャロライン・ショウ:Entr'Acte, Valencia  
 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第14番 嬰八短調 作品131

第7回(2011年)コンクール第1位。米国で注目を集める屈指の若手弦楽四重奏団で、「メンバーの実際年齢とは裏腹に、数十年辛苦をともにしてきた音楽家たちにしか出せない熟成した演奏」とワシントンポスト紙も絶賛。2011-13年はジュリアード音楽院でジュリアード弦楽四重奏団のアシスタントとして室内楽を指導。2014-15年メトロポリタン美術館レジデントアンサンブル、2016年秋からはテキサス州立大学で客員教授としてソロや室内楽の指導に当たっている。今回演奏するキャロライン・ショウは、最年少でピューリッツァー賞を受賞した、米国で注目される若手作曲家。

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 **Collage Piano ～コラージュ・ピアノ～**

主催 Collage Piano  
～コラージュ・ピアノ～

発売中



2019年3月3日(日) 14:00開演 自由席  
一般前売¥3,000(友の会価格¥2,700) 一般当日¥3,500(友の会価格¥3,150) 学生前売¥2,000 学生当日¥2,500

出演 鈴木華重子、中井由貴子、藤井快哉(以上ピアノ)  
曲目 ラヴェル:ラ・ヴァルス  
ストラヴィンスキー:ペトルーシュカからの3楽章  
デュカス:魔法使いの弟子  
シュニトケ:  
ストラヴィンスキー、プロコフィエフ、  
ショスタコーヴィチへのオマージュ ほか

アメリカ・インディアナ大学で互いに切磋琢磨しながら学んだ3人のピアニスト鈴木華重子、中井由貴子、藤井快哉によるピアノアンサンブル『Collage Piano』。2012年に結成以来、国内のみならず韓国、中国など海外公演も行ってきました。そして7年目を迎える今回、満を持してザ・フェニックスホールでの自主公演が実現します。『ベル・エポック』をテーマにデュカス、ラヴェル、ストラヴィンスキーの作品を1台4手、2台4手、そして1台6手、2台6手といった、観るにも聴くにも迫力ある編成でお届けします。共通の音楽ベースをもとに個性をぶつけ合うCollage Pianoの夢幻自在なパフォーマンスを、目と耳でお楽しみください!

協賛公演 **eRika & セルゲイ・アントノフ コンサート**

主催 Office Lei

発売中

2019年3月8日(金) 19:00開演 自由席 一般前売・当日¥4,000(友の会価格¥3,600)

出演 eRika(ヴァイオリン)  
セルゲイ・アントノフ(チェロ)  
佐竹裕介(ピアノ)

チャイコフスキー・コンクール優勝から11年、ニューヨークに移住して12年のアントノフ。15歳から一人、10年間のニューヨーク留学を果たしたeRika。二人の融合は、常に心を揺さぶる「ニューヨークclassical music」の世界を全身全霊で表現し、このザ・フェニックスホールで皆様を魅了することでしょう。

曲目 フォーレ:ヴァイオリンソナタ 第1番 イ長調 作品13  
J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007  
メンデルスゾーン:ピアノ三重奏曲 第1番 二短調 作品49



協賛公演 **ベルリン・フィルのメンバーによる室内楽**

主催 コジマ・コンサートマネジメント

発売中

2019年3月26日(火) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,500(友の会価格¥4,900) ※友の会割引は前売のみ。

出演 ノア・ベンディックス=バルグリー(ヴァイオリン)  
アミハイ・グロス(ヴィオラ)  
オラフ・マニングアー(チェロ)  
オハッド・ベン=アリ(ピアノ)

ベルリン・フィルのメンバーによる室内楽。ピアノ四重奏のタペー マーラー、シューマン、ブラームス。ベルリン・フィルの顔としてその美音で魅了する第1コンサートマスター ベンディックス=バルグリー、室内楽の名手としても名高い第1ソロ・ヴィオラ奏者のグロス、オーケストラの核となるソロ・チェロ奏者のマニングアー、ベン=アリをピアノに迎え、今聴くことのできる最高の組み合わせによるBPO室内楽。

曲目 マーラー:ピアノ四重奏曲(断片) イ短調  
シューマン:ピアノ四重奏曲 変ホ長調 作品47  
ブラームス:ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25



協賛公演 **伊藤 恵 (ピアノ)**

主催 コジマ・コンサートマネジメント

発売中

2019年4月12日(金) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥4,500(友の会価格¥4,000) ※友の会割引は前売のみ。

曲目 ブラームス:3つの間奏曲 作品117  
ベートーヴェン:  
ピアノソナタ 第30番 ホ長調 作品109  
ピアノソナタ 第32番 八短調 作品111  
シューマン:  
子供の情景 作品15より 第7曲「トロイメライ」  
森の情景 作品82より 第7曲「予言の鳥」

出演 伊藤 恵(ピアノ)  
日本人ピアニストで初! 難関ミュンヘン国際音楽コンクール優勝。サヴァリッシュ指揮=バイエルン国立管、フランクフルト放送響、チェコ・フィルなどと共演。2015年度レコード・アカデミー賞、文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞。東京藝術大学教授。



協賛公演 **インペトウス・サクソフォン・アンサンブル 第一回演奏会 —ジャン=ドニ・ミシャ氏を迎えて— 大阪公演**

主催 インペトウス・サクソフォン・アンサンブル

発売中

2019年5月7日(火) 19:00開演 自由席 一般前売¥3,000(友の会価格¥2,700) 一般当日¥3,500(友の会価格¥3,150) 学生前売¥2,000 学生当日¥2,500

出演 インペトウス・サクソフォン・アンサンブル/  
井上ハルカ、酒井 希、磯貝充希、安 泰旭、田中由貴、  
野原朝宇、根本響子、本堂 誠、竹下真理子  
ゲスト出演 ジャン=ドニ・ミシャ(以上サクソフォン)  
曲目 ジャン=ドニ・ミシャ:  
ソプラノサクソフォン独奏のための「心」  
ソプラノサクソフォンとサクソフォン四重奏のための  
「ザ・ダーク・サイド」(日本初演)  
パスタ・コンチェルト(日本初演)  
ソングブック(日本初演) ほか

フランスで研鑽を積み、現在日本各地で活躍する若手サクソフォン奏者により結成された「インペトウス・サクソフォン・アンサンブル」の記念すべき第一回演奏会では、演奏家・作曲家として世界で活躍するサクソフォン界の鬼才ジャン=ドニ・ミシャをゲストに迎える。およそ16年ぶりとなるミシャの今回の来日では、即興や民族音楽に自身のインスピレーション織り交ぜた彼の近年の作品を中心に独奏、室内楽、協奏曲など様々なスタイルで共演する。



©Loshagin

協賛  
公演

## ヴィオラスペース2019大阪 “Bon Voyage～ヴィオラで巡る音楽の旅”

主催 テレビマンユニオン  
特別協賛 NTTファイナンス株式会社

2/15(金) 発売  
2019年5月30日(木) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,000(友の会価格¥4,500)  
U25¥2,500(1994年以降生まれの方限定/公演当日に生年を証明できるものを持参ください。)

出演 今井信子、ルオシャ・ファン、小峰航一(以上ヴィオラ)  
小栗まち絵(ヴァイオリン)、有吉亮治(ピアノ) ほか

旅は音楽家にとって人生そのものといっても過言ではありません。旅することは演奏や音楽解釈に影響を与えます。新しい仲間や新しい生徒との出会い、あるいは初めての作曲家や指揮者から受ける刺激によって、音楽は形づくられていきます。さらに、さまざまな土地を訪ね、そこにいる人々と交流することによって私たちが取り巻く世界は進化し、文化は発展します。今年のヴィオラスペースでは“旅”をテーマに皆さんと一緒に音楽旅行をしてみたいと思います。Bon Voyage!

曲目 西村 朗:8つのヴィオラのための「桜」  
ミヨウ:4つの顔  
ヴィヴァルディ:ヴァイオリン協奏曲集「四季」より“春”  
パガニーニ:大ヴィオラと管弦楽のためのソナタ ほか



今井信子

ルオシャ・ファン

## 今井信子presents フォーク・ソングス ～ハンガリアン・スケッチ～に寄せて

Nobuko Imai presents  
Folk Songs ~Hungarian Sketches~

今井信子



ミハイ・シボシュさんはハンガリーのフォーク・ミュージックを専門とするムジカーシュというアンサンブルのヴァイオリニストです。シボシュさんとはバルトークの44の二重奏曲とルーマニア民俗舞曲で共演する予定ですが、音程の取り方ひとつとっても私達クラシックの奏者とは全く異なる演奏をなさいます。どちらが良い、悪いということではなく、私達クラシックの人間とシボシュさんとの音程の取り方や音のつくり方の微妙な違いを楽しんで頂ければと思います。特にルーマニア民俗舞曲は途中シボシュさんによるソロも入るオリジナル・バージョンになる予定です。シボシュさんの独特の節回しとリズムによる躍動感溢れるソロはこの作品の元になっているルーマニア(かつてのハンガリー領)の民謡を想起させてくれるものになるでしょう。

またバルトークの二重奏曲では私だけでなく、関西の子供たちとも共演する予定です。彼らには事前にシボシュさんによるワークショップを受けて頂くのですが、シボシュさんとの経験を通じて自身を表現し、他者と繋がるという音楽の喜びの一番根っこにあるものを感じ取ってくれればと願っています。

マルタ・グヤーシュさんはとても自由な音楽づくりをする方で、尽きる事のないアイデアの持ち主です。彼女の中に様々な引き出しがあって、彼女と演奏すると常に新しいものが生まれてくるのです。ブラームスのヴィオラ・ソナタはこれまでに何度も演奏していますが、彼女と演奏する事で

新たな発見があるかと思うと今から楽しみです。またハンガリーご出身ということもあり、バルトークやコダーイの作品をまるで自分の言葉のように良く知っていらっやいます。ハンガリーの音楽言語に精通し、それを基に自らの言葉で音楽を語る事が出来るという点でどこかシボシュさんと通じるところがあるように思います。

フォーク・ミュージックは、大きなコンサートホールで演奏する事を目的につくられたものではなく、村の祭りや人々の集い、お祝の席、家庭などで演奏する為につくられたものです。つまりよりプライベートな空間で演奏されるインティメートな音楽だということです。大きなコンサートホールで良く音が通るように演奏するといった発想とは全く異なるところから生まれる音楽で、家族など顔見知りの仲間と楽しみながらコミュニケーションを取るためのツールでもあります。そのような意味で300席という親密な空間で音楽を楽しめるザ・フェニックスホールは理想的な場所だと思います。私も今からグヤーシュさんとシボシュさんの音楽による「語らい」に耳を傾けるのを楽しみにしています。

(いまい・のぶこ ヴィオラ奏者、

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザー)



「フォーク・ソングス ～ハンガリアン・スケッチ～」は、今井信子(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザー)の企画公演。2019年3月2日(土)午後3時開演。入場料は、一般4,000円(友の会3,600円)、学生1,000円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問い合わせは同センター(電話06・6363・7999 土・日・祝を除く平日10時～17時)。

# 音楽も環境次第

— 平野啓一郎



Keizo Matsui

コンサート会場で音楽を聴く、ということを考える時に、いつも思い出すのは、シュトックハウゼンのこんな逸話である。

1958年に、ケルンで、「電子音楽とピアノと打楽器のための『コンタクテ』」という作品を初演した時のことである。

その日は、立ち見が出るほどの盛況で、客席は熱気に包まれ、最初にまず何か別の30分のオーケストラ作品が演奏された後、いよいよ『コンタクテ』が始まる時には、場内は息詰まるほどの暑さになっていたという。飽くまで本人の表現だが、シュトックハウゼンの音楽が、それほどまでに熱狂的に迎え入れられていたというのは、やはり時代を感じる。

さて終演後、作曲者の許には、34分半というこの曲の演奏時間が「長すぎる」という批判が相次いだらしい。

その後、初演のチケットを買えなかった人のために、再演が行われたが、その際には、最初のオーケストラ作品はプログラムから外し、『コンタクテ』だけを演奏した。開演前には、録音監督の許へ行き、何も問題ないじゃないか、と言う彼を説得して、会場の換気を強め、空調の温度を2℃下げさせた。座席状況は「普通」だった。

結果、非常に快適な環境の中で『コンタクテ』に集中した聴衆から、終演後、曲が「長すぎる」という不平は、ただの一つとして聞かれなかったという。コンサート全体的話ではない。楽曲の評価としての話である。

シュトックハウゼンは、冗談めかした思い出話として、この一件を回想しているのではない。「モメント(瞬間)形式」という論文の中で、聴衆にとっての音楽の時間体験とは何かを極めて真面目に論じ、この逸話に言及しているのである。

平野啓一郎(ひらの・けいいちろう)/小説家 1975年生。京都大学法学部卒。1999年在学中に『日蝕』により第120回芥川賞を受賞。以後、数々の作品を発表し、各国で翻訳紹介されている。2004年には、文化庁の「文化交流使」として一年間、パリに滞在。美術、音楽にも造詣が深く、幅広いジャンルで批評を執筆。著書は小説、『葬送』『決壊』(芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞)『ドーン』(ドゥマゴ文学賞受賞)、『マチネの終わりに』(20万部突破/渡辺淳一文学賞受賞)、エッセイ・対談集に『私とは何か「個人」から「分人」へ』『考える葦』などがある。2018年9月に新作長編小説『ある男』を刊行。



©瀧本幹也

これは、私たちの実感に照らしても、非常によく分かる話ではあるまいか。

音楽だけでなく、芸術鑑賞には多かれ少なかれ、受け手の環境の問題がある。映画でも、映画館で見るとか、飛行機の機内サービスで見るとかで、その印象は随分と違うし、もっと言うと、座席がビジネスかエコノミーかでもまた違う。

環境の良し悪しだけでなく、私達自身の体調も大いに関係している。酷い高熱を発している時は、音楽どころではないし、どうしてもトイレに行きたくて我慢できない時には、ピアニストがアンコールで演奏するショパンのワルツでさえ、「長い」と感じることだろう。

こうした問題は、コンサート会場の設備が整う以前の時代の方が、より強く実感されていた。19世紀のフランスの画家ドラクロワの日記を読んでいると、パリのオペラ座に行ったが、隣がうるさくて集中できなかった、といった愚痴に目が留まるが、会場の寒さについての不平も、当時はよくあったようである。今のように再生装置もなく、音楽体験はコンサート会場での一期一会だっただけに、コンディションが悪い時には、腹立たしさも猶更だっただろう。

シュトックハウゼンも、流石に、会場の空調システムの進歩と楽曲の長さとの相関関係については調べていないようだが、コンサートホールの歴史としては、つい音響や規模、内装の方に注意が向きがちなので、興味深い視点である。

別段、シュトックハウゼンの影響でもあるまいが、私も暑いというのはあまり経験したことがないものの、寧ろ寒さが気になったことは何度かあり、微妙な季節には、念のために上着を持っていくようにしている。



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL.06-6363-0211  
Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2019年1月  
発行 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール  
編集 諸藤 修一  
デザイン 松井桂三有限公司